

玉 じゅり

神社だより

第31号

編集・発行

長崎県神社庁 教化部

令和5年版

長崎市上西山町19-3

TEL.095-827-5689

<https://nagasaki-jinjacho.or.jp/>

伊勢神宮(内宮)・宇治橋の大鳥居

日本は八百万神に護られた国です。神話に書かれている神様は、それぞれの働きを持っています。性格・働きの異なる神様がそれぞれ考えを出し合い話し合いを行っていました。神話の時代には、須佐之男命の行いで天照大御神が天の岩戸にお隠れになり日々の生活が出来なくなつた時、神様は天安河原に集まって意見を出し合い、それぞれの特技を生かし天の岩戸を開き、もとの生活に戻りました。また、大祓詞の中には、「神集えに集え賜い神議りに議り賜いて・」（神様が集まって、意見を出し合って・）とあります。明治維新の後、新政府の基本方針である五か条の御誓文の第一に「広く会議を興し万機公論に決すべし」ともあります。

古来より我が国では、神々や人々が同じ所に集い意見を出し合って物事を進めてきました。色々な考えや特技を持った人たちは自分の意見を出し合い、出

日本の心

来ることを行い協力して生活を行ってきました。その中心が神社であり祭りでした。日本の心は、違う考えや意見を持つ人が、話し合いを行い、互いに認め合い協調しながら日々の生活を行っていくことです。

家の神社は神棚です。神棚には日本の総氏神である伊勢神宮のお神札、氏神様のお神札をはじめ信仰をしている神社のお神札を納めます。「たくさんのお

神札(神様)を祀っていいですか？」とよく尋ねられ

ますが、前述の通り神様にはそれぞれの働きがあり、お力を出し合って良い方向に導いてくださいます。毎日神社へお参りする事は難しいでしょうから、家に神棚を祀り日々の生活が豊かになることを祈りましょう。家の中でも、家族それぞれの意見を尊重しながら、同じ方向を向くように話し合うのが日本の心です。



神宮大麻頒布150周年

神宮大麻(伊勢神宮・天照大御神のお神札)は、平安時代頃から活動していたとされる「御師」と呼ばれる神職により、室町時代中期以降に頒布されていた「御祓大麻」に由来します。

御師の活動は全国におよび、江戸時代の史料を基に計算すると、なんと全国の約9割の家庭で御祓大麻がまつられていたそうです。

ところが、明治4年に、神宮制度の改革を受けて、御師制度は廃止されてしまいます。しかし、遠方に住む人々など、御祓大麻を通して「お伊勢さま」を信仰していた人が多くいることから、明治5年に「朝に夕に皇大御神の大前を慎み敬ひ拜がましめ給ふ」との、明治天皇の御聖旨により伊勢神宮から全国の神社を通じて、直接ご家庭に頒布されることになりました。

時を経て、令和4年は神宮大麻の全国頒布から、ちょうど150年の節目を迎えました。令和5年は全国頒布200年へ向けた新たな一步を踏み出す年であります。人々がお伊勢さまに寄せてきた崇敬の真心、そして人々の真心に寄り添った明治天皇の思し召しを受け継ぎ、次世代へと伝えていかなければなりません。

神宮大麻と授与大麻

明治5年から明治天皇の思し召しにより、全国に広く頒布されることとなった神宮大麻。

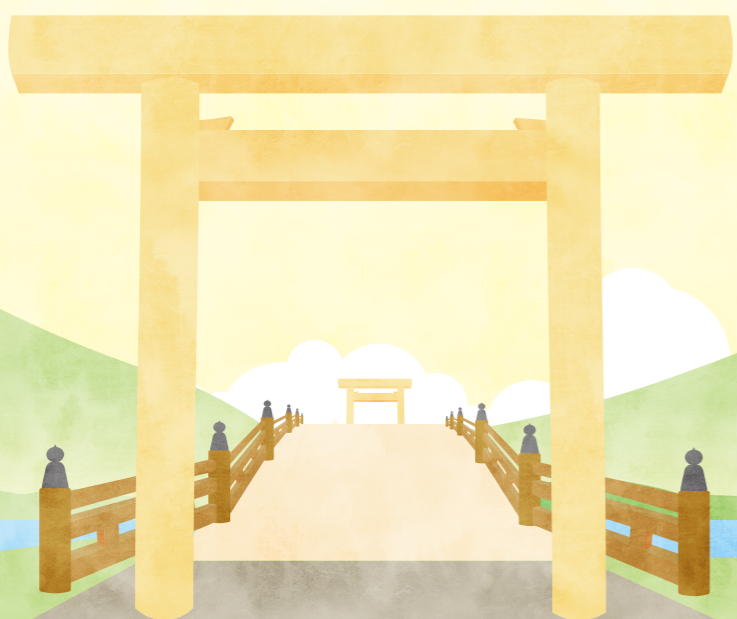
実は、伊勢神宮には神宮大麻と別に、神宮に直接お参りに行った人のみを受け取る事のできるお神札があります。それらは「授与大麻」と称され、全国の各神社を通して頒布される神宮大麻とは区別され、具体的には、形状の違いにより剣祓、角祓、神楽大麻、などがあります。

神宮で直接授与される授与大麻は、「神宮へお参りした際の感激と喜びに、広大無辺の御神徳を仰ぐ心映えをもって、拝戴を希望する人に授与されるもの」とされ、ある種、一期一会のような個人的な感情のおもむくところにより受けるものとされており、一方、神宮大麻は、明治天皇の御聖旨により、各氏神様を通じて全国の家庭に遍く頒布される「大御璽」とされ、つまり、国民にひとしく頒布されるべきものとされ、その拝戴の趣を異にしています。

一生に一度はお伊勢参り

伊勢の神宮は、神社神道最大の聖地且つ信仰の中心地であり、全国の神社の中でも格別に尊いお宮です。

「一生に一度はお伊勢参り」と呼ばれるほど、江戸時代には庶民の間で憧れの旅路でした。皆様も是非、お伊勢参りをし、神話に事始まり、国史を貫き現在に至る悠久の歴史と心のふるさとと謳われる所以を体感し、感情のおもむきに任せ授与大麻を拝戴し、ご家庭では神宮大麻を通して日々の祈りを捧げて頂ければと思います。



神棚に今日も家族の

ありがとう

神宮大麻全国頒布百五十周年記念

ご造営ニュース



三上神社
みかみじんじや

宮司・本 田 聡

鎮座地・西海市西海町水浦郷五〇六番地

ご祭神・天御影命
あめのみかげのみこと

電話・〇九五九一三二一〇二二七（宮司宅）

西海市西海町水浦郷に鎮座する三上神社は、
由緒によれば一六四七（正保四）年から観世音
をお祀りしていましたが、明治三年に天御影命

をお祀りし、三上神社と改めました。

明治七年九月には長崎県知事鈴木信太郎の名により神饌幣帛料供進の神社へ指定
されるとの記載があります。

ご社殿は長年の風雨により老朽化が進み、この数年修復が課題となっていました
が、この度建設委員会を中心に改築を計画し、氏子並びに地域有志より特別のご寄
進を賜り、令和三年七月初旬に旧社殿解体奉告祭並びに仮殿遷座祭を斎行。同月中
旬に起工式、十月十日の例大祭にて本殿竣工祭並びに本殿遷座祭を滞りなく執り行
いました。

その後、参道も整備され立派な御社と境内へと生まれ変わりました。
この事業に携わっていただきました全ての方々へ謹んで感謝申し上げます。

総事業費・一千二百万円

参拝のいろは その⑥ 七五三詣

十一月十五日には七五三と称し、七才の女児、五才
の男児、三才の男女児が家族と共に産土神社うぶすなに参詣
し、日頃の御神徳に感謝するとともに今後の健やか
な成長を願います。

これは帯解おびとぎ、袴着はかまぎ、髪置かみおきというお祝いの儀式が起源
とされています。七才女児の帯解は、着物の付け紐を
とり、大人と同じく帯を締めはじめる儀式で、室町時
代には行なわれていました。五才男児の袴着は初め
て袴をつける祝いで、平安時代頃から行われていた
儀式です。三才男女児の髪置とは三才まで病氣予防
の為に、髪を剃って頭を清潔にしていたのを止めて
髪を伸ばし始める儀式で、鎌倉時代頃には始まった
と言われています。

昔は今ほど医療が発達しておらず、子供を七五三
の年齢まで無事に育てる事は並大抵なことではな
かったのです。「七つまでは神のうち」といい、子供の
成長は神様にお任せするしかありませんでした。

時代や環境は変われども、我が子の成長を喜ばな
い親はおりません。どうぞ七五三
にはお近くの神社と御先祖様へお
参りして感謝の気持ちを表し、こ
れからの成長をお祈りしまし
う。

